



# ズッキーニ栽培マニュアル

～小スペースから始められる 最近話題のズッキーニ栽培！～



ズッキーニはカボチャの仲間のペポカボチャの一種で、つるが伸びないため別名「つるなしカボチャ」と言います。アメリカ南部原産で、温暖な乾燥地を好みます。また、分枝性が弱く茎も伸長しにくいいためあまり場所をとらず、強健で栽培しやすく、家庭菜園にも向く野菜です。土壌に対する適応は広く、水はけのよい畑を好みます。

さらに、25ℓ以上のコンテナを使えばプランターでの栽培もできますので、小スペースで栽培を楽しめます。

## 1 播種・育苗

発芽適温は25～30℃で、しっかりとした温度管理が順調な発芽につながります。日当たりのよい室内など温度を確保できる場所で9～12cmサイズのポリポットに2～3粒まいて育苗します。本葉1枚ごろまでに、健全な苗を1本残し間引きます。

12cmポリポットの場合は約30日、本葉3.5枚程度の苗が定植適期苗になります。



↑タネまきの様子。



## 2 畑の準備(元肥)

定植時期の目安は最低気温8～10℃、最低地温12℃以上になったころです。一般地の露地栽培では4月下旬ごろ、トンネル栽培では4月上中旬ごろになります。

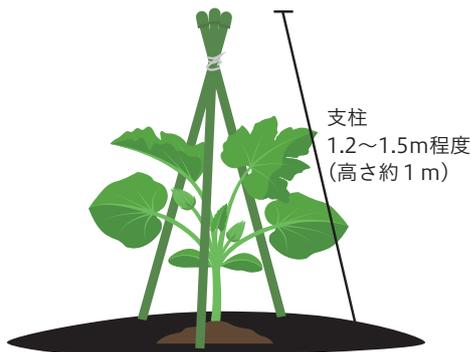
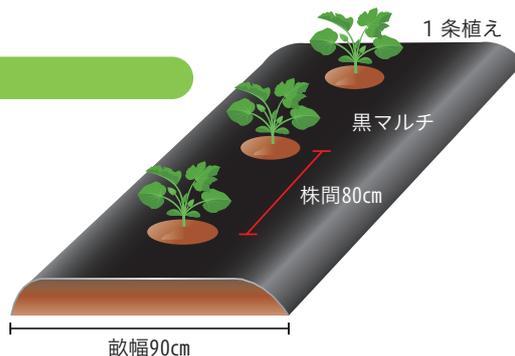
元肥の量は目安として1㎡当たり成分量で、チッソ10～15g、リン酸15～20g、カリ10～15gを施用します。マルチをすることで適度な湿度と地温が確保でき、スムーズな活着を促せます。

また、マルチ栽培は土の跳ね上がりも防止し、栽培中の病害の抑制にも有効です。

## 3 定植・摘果

畝幅90cm、株間80cm、1条植えを目安に定植します。風などで株が振り回されないように、長さ1.2～1.5mの支柱を使用し、高さ1m程度となるよう支柱を立てて固定します。古い葉や病気が発生した葉を除去し、風通しと採光性をよくして病害の発生を抑えます。

また、初期の草勢を強くするために、1～2番目の雌花は開花前に摘果します。



## 4 交配

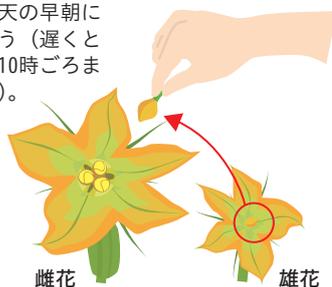
交配は通常ハチが自然に行いますが、気温が低い時期や雨の日、ハチがいない場合には人工交配が必要です。早朝ほど着果がよくなるので、人工交配は遅くとも午前10時までには行いましょう。

当日咲いた雄花の花弁を除去し、葯を雌花の柱頭になぞるように軽く触れさせます。

この時、柱頭に花粉を均一に付着させること、強い力で柱頭に押しつけないことが大切です。

### ●ズッキーニの受粉

晴天の早朝に行う（遅くとも10時ごろまで）。



## 5 適期収穫

交配後4～6日、果径4cm、長さ20cm程度が収穫の目安になります。温度が高い時期は肥大が早くなるため、収穫遅れに注意しましょう。取り遅れた果実は株への大きな負担になり、その後の草勢低下や果形の乱れ、着果不良につながります。

## 6 追肥・摘葉

収穫開始ごろを目安に、チッソ成分で1㎡当たり2g程度を7～10日間隔で追肥します。摘葉は果実の下葉2～3枚を残して葉のみを切り取ります。葉柄は残すことで株の倒伏防止になります。



↑栽培盛期の様子。



追肥は株間にチッソ成分で1㎡当たり2g程度施す。

### 小スペースでできるプランター栽培！

前頁で紹介した「ダイナーEX」と「オーラムEX」はウイルス病やうどんこ病に強く、収量も安定しているため、初心者の方でも作りやすい品種です。定番色の濃緑色の「ダイナーEX」を作るもよし、鮮やかな黄色の「オーラムEX」と合わせるもよし。近年人気のズッキーニの栽培をぜひご自宅でも挑戦してみてください。



### ✔プランター栽培のポイント

#### ①プランターの準備

ズッキーニは、つるなしとはいえカボチャの仲間なのでプランターは大型(25ℓ以上)のものを使用します。水はけのよい環境を好むため、プランターの底には鉢底石などを敷きましょう。

#### ②肥培管理

畑とは違い根が伸ばせるスペースが限られているため、特に肥料切れには注意します。7～10日に1回の割合で、化成肥料を土1ℓ当たり1gを目安に追肥しましょう。



↑「ダイナーEX」



↑「オーラムEX」